

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)桜台計画 新築工事	階数	地上5F
建設地	名古屋市南区霞町35番1、楠町21番	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域:20m ² 高	平均居住人員	89 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年10月9日
敷地面積	1,162 m ²	作成者	
建築面積	671 m ²	確認日	2015年10月9日
延床面積	2,450 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.5 ★★★★★☆

☆:S:★★★★★ A:★★★★☆ B:★★★☆☆ C:★★☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.6

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	自然環境に配慮、周辺環境に調和するように計画し、建物の快適性や安全性などの品質や性能を高めることで長期間利用されるよう配慮した。また、社会の良質なストックとなるよう建物の熱負荷抑制し、ライフサイクルを通じた環境負荷低減をめざした。	その他 0
Q1 室内環境	遮音対策による良好な音環境の形成や外壁・屋根・窓などの断熱性の向上、庇等による日射熱負荷の低減により建物の快適性を高めた。また、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上材を用い、シックハウス対策に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 中高木の樹木を建築物の周囲に配し、計画敷地周辺の良好な緑地のある街並みに配慮するとともに、大気汚染物質・騒音などの緩衝帯になるよう計画した。
LR1 エネルギー	各住戸の外皮を2面以上外部に接するよう設計し、開口を設け良好な採光・通風を確保した。また、潜熱回収型給湯器の利用により建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR3 敷地外環境 周囲の環境を考慮し、各住戸に1台の駐輪スペースを確保、また、近隣住民に配慮した上で可能な限り駐車スペースを設けるように努めた。
Q2 サービス性能	可能な限り居室天井高2.45mを確保し、ゆとりある住空間の提供に配慮した。また、躯体耐用年数は劣化対策等級3相当とし、建物の信頼性についても考慮した。そして敷地内にスロープを設置することにより、バリアフリー	
LR2 資源・マテリアル	ハロン消火剤の不採用やグリーン購入法における「公共工事特定調達品目」の断熱材(ノンフロン材)を天井・外壁等に採用することで、地球温暖化抑制に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される